

講義名	都市環境論			
担当教員	内山 勝久			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要

この授業は、都市環境の望ましいあり方を学びながら都市のサステナビリティ（持続可能性）について考察することを目的とします。都市ではヒト・モノ・カネ・情報が集まり、活発な経済活動が行われていますが、経済活動の拡大に伴って都市環境が悪化し、地球環境への影響も懸念されています。近年では、こうした都市環境問題を改善し、サステナビリティを高めることが世界各国で求められています。この授業では、都市の自然環境やインフラストラクチャー（都市を支える基盤施設）といった都市の構成要素がもたらすサービスを都市環境として捉え、都市環境を改善し維持するための方法、まちづくりとの関連、さらに、持続可能な都市を構築するにはどうしたらよいかを検討します。

到達目標

自受講生が、(1) 都市環境に関わるさまざまな課題を理解し、現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて、都市生活との関係性の観点から考察できるようになること、(2) 都市の持続可能性をグローバル化する環境問題と社会的課題の下での地域問題として位置づけ、他県の先進的取り組み事例に学びながら、地域の課題解決のヒントを得ることができるようになること、(3) 都市環境問題とその背後に存在する経済活動の関係を理解するとともに、都市環境問題の改善のために経済学の考え方を活用して自らの意見を提案できるようになることを目指します。

提出課題

中間課題として、期中にレポートを提出してもらう予定です。また、期末には期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業内で説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

中間レポート課題40%、期末レポート課題60%の比率で評価します。授業内容に関する的確な質問や優れたレポートに対しては、満点を越えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他

授業中の私語は禁止です。他の専攻的な学生にとって大きな迷惑行為となりますので、厳に慎んでください（集中力を維持してください）。履修等で発病が必要な場合は発手の上行ってください。授業の履修にあたっては、授業内容をまとめる専用のノートを作成することをお勧めします。労をいとわず自分の手で書くことにより、自分が理解できていること、理解できていないことが明確になってきます。

教科書	.特定の教科書は使用しません。.				

プリント資料及び参考文献

担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料はRYUKA Portal経由で毎回配布します。参考文献は必要に応じて適宜授業中に紹介しますが、差し当たって以下のものを挙げておきます。
・宇弘弘文・澤井裕治・高田正尚「編著」『都市のルネッサンスを求めて 社会的共通資本としての都市1』、東京大学出版会、2003年。
・宇弘弘文・國岡守生・内山勝久「編著」『21世紀の都市を考ふる 社会的共通資本としての都市2』、東京大学出版会、2003年。

授業計画

第1回 イントロダクション： 授業のねらいや都市環境の課題について
第2回 都市と自然環境(1)： 大気汚染
第3回 都市と自然環境(2)： ヒートアイランドと熱環境の改善
第4回 都市と自然環境(3)： 水環境・緑地
第5回 都市と自然環境(4)： 災害と防災・減災
第6回 都市インフラと環境(1)： エネルギー供給と脱炭素型都市
第7回 都市インフラと環境(2)： グリーンインフラ
第8回 都市インフラと環境(3)： 都市交通と環境
第9回 都市インフラと環境(4)： 廃棄物処理と資源循環
第10回 都市インフラと環境(5)： インフラ老朽化問題
第11回 まちづくりと都市環境(1)： コンパクトシティ・スマートシティ
第12回 まちづくりと都市環境(2)： 景観保全と観光
第13回 まちづくりと都市環境(3)： 環境影響評価
第14回 全体のまとめ(1)： 都市のサステナビリティ
第15回 全体のまとめ(2)： 社会的共通資本としての都市

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に、事前に配布された授業資料に目を通し、授業内容に関する自分なりのイメージを持っておいください（その上で授業に臨むこと）：約1時間/回。
授業終了後は、記憶が鮮明ならしく確認してください（確認してわからなかった点は質問してください）：約1.5時間/回。さらに、毎回の授業のなかで自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べて、自分の問題意識を醸成してください：約1.5時間/回。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の「到達目標」を達成することで、都市環境の観点から都市のサステナビリティや現代社会の重要問題の一つである持続可能な社会の構築に関して考察できるようになり、さらに、諸外国でも採用されている都市環境政策の経済的手段の機能を理解することを通して、都市や地域で生じる環境問題に対して改善策を提案できるようになります。これは、経済学部経済学科の学生が卒業時に獲得しておくべき資質・能力である、人間・社会・自然に関するこれまでの学問的知識の基礎を身につけ、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察して課題を提案したり、経済学を基礎として、複雑化する地域社会で生じる問題を読み解き、解決策を提案したりすることができる能力が備わることにつながります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、シラバスが修正される場合があります（授業方法、評価方法など）。最新の情報はRYUKA Portalで確認してください。